

平成25年度（7月）
紀の国森づくり基金運営委員会
議 事 録

開催日時 平成25年7月1日（月）
10:00～11:10
開催場所 和歌山県自治会館
3階 304会議室

平成25年度（7月）
紀の国森づくり基金運営委員会

1 開催日時 平成25年7月1日（月）10：00～11：10

2 開催場所 和歌山県自治会館 3階 304号室

3 出席委員

大浦 由美 委員

岡本 賢司 委員

坂下 裕美 委員

寒川 歳子 委員

竹下 達也 委員

谷関 俊男 委員

中西 重裕 委員

橋本 卓爾 委員

計8名

4 県関係出席者

農林水産部 部長 増谷 行紀

森林・林業局 局長 橋本 秀明

林業振興課 課長 西山 久雄

森林整備課 課長 豎 一宏

副課長 泉 清久

緑化推進班長 中瀬古金一

主任 太田 和樹

主査 山崎 直哉

平成25年度（7月）紀の国森づくり基金運営委員会

日時：平成25年7月1日（月）10：00～11：10

場所：和歌山県自治会館 3階 304会議室

開 会 10時00分

■■委員長

本日はご多忙のなかご出席いただきありがとうございます。

それでは議事に入る前に、紀の国森づくり委員会設置要綱第7条第1項に基づきまして、本日の議事録署名人を■■委員と■■委員にお願いします。

それでは、議事に入りたいと思います。

議事の1としまして、「平成25年度 紀の国森づくり基金活用事業の審議」を議題とします。委員の皆様の前審査結果などについて、当局から説明願います。

豎森林整備課長

今回の公募は、平成25年3月13日から4月30日まで募集し、申請件数17件、約1800万円の応募があり、各申請毎に委員の皆様に事前審査を行っていただきました。

事前審査については、「公益性」、「計画の実現性」、「効果」、「予算の内容」の4項目の審査で、23点以上の事業が「適当」となります。それでは、評点結果等の詳細を中瀬古班長から説明します。

中瀬古班長

それでは、事業の選定要領と評点結果について説明します。

まず、応募のあった事業は、県で整合性について確認を行います。今回は、全ての応募事業に整合性があると判断し、委員の皆様に評点シートの作成をお願いしました。その評点シートの結果を「応募事業別評点結果」に取りまとめていきますので、これを参考に適否のご審議をお願いします。なお、「適当」は平均点23点以上で、「0点」の項目が採点者数以上もしくは過半数の採点者が「0点」とした項目があるものを除きます。そのほか、再評点を行うことがふさわしいと判断された事業については、この場で再評点を行っていただき、その結果で決定します。県では、この委員会で適否の決定をいただき、事業の採択を行うこととしています。

それでは、評点結果について、簡単にご説明します。

今回は、すべての応募事業が適当と判断する基準点の23点を上回っており、0点の項目はありませんでした。また、採択者への通知の際に、共通の留意事項として記載する「事業実施にあたっては、基金事業の趣旨等を参加者に十分説明した上で、事業実施すること」という文言に加え、各委員からの代表的な意見を留意事項として記載したいと思います。

この留意事項については、委員会終了後改めて各委員に対しまして内容の確認をさせていただきたいと考えておりますが、本年度の事業実施が例年より遅れている関係で、各団体からもできるだけ早い事業決定が望まれておりますので、文書のやり取り等についてタイトな日程となることが想定されますが、ご協力よろしく申し上げます。

以上を踏まえ、ご審議の程よろしく申し上げます。

■■委員長

それでは、審議に移ります。

先ほど説明がありましたように、全ての事業が23点以上ですが、これについて何かご意見はございませんか。

■■委員長

特にご意見はございませんので、審議した17件については、適当ということによろしいですか。

各委員

(異議なしの声)

■■委員長

それでは、17件については適当であると委員会から県に報告することとします。ただし、各委員から要望等も出ておりますので、それを踏まえて県から団体へ適切なご指導をお願いします。

今回は、例年に比べますと大きな変化がありました。特に案件が17件と例年に比べかなり少なくなっていますが、そういうことを含めて、何か総括的なご意見がございましたらお願いします。

■■委員

全般を通じて、具体性が高まってきていると思います。ただし、大きな金額はないんですが、ハード的なものの中に委託事業の比率が高いものがありますので、市町村が主体となって積極的に事業として行うべきでないかと思われるものもあります。

また、私たちが未経験のITの活用など、大変良いことだとは思いますが、このメンバーで果たして正当な評価ができるんだろうかという疑問があります。

それから、特に竹に関しては、全国的な問題ですが、自立的な産業として竹を利用することが難しいため、里山がどんどん竹に侵されています。この状況のなかで、竹林整備がずっとこの森づくり基金に頼らなければならないとなると、森づくり税条例が期限切れになった時に途切れてしまいます。文化の創造も含めて、永續できるような方法にチャレンジする中で、できるだけ絞ってその方法を見いだしていくような運動に高めていってほしいと思います。全体を見させていただきました。

■■委員長

私の方から1点申し上げます。

結果的には5件でしたが、今回は委員の皆様が聞き取り調査を希望す

る案件について聞き取り調査を行いました。このように、事前にきちんと聞き取り調査を行うことは、審査をするうえで大変メリットがあると思いますので、委員の皆様にご迷惑をお掛けしますが、聞き取り調査をもう少し増やしても良いのではないかと考えています。こういうことをきちんとやっていくことが大事ではないかと考えています。

もう一つ、今回は申請数が17件と少し寂しいですが、非常に先進的な取り組みなどが出てきていますので、今後、このような新しい取り組みをもっと事業の中に取り入れるなどして、発展していったら良いと考えています。

ほかに何かございませんか。

■■委員

先ほどの話とも絡みますが、確かに、竹に関する問題解消という意味合いの事業が目につくように思います。したがって、今後、地域的に竹に関する同じような事業が多く出てくるように思います。

竹の問題は、和歌山県だけでなく日本全国の課題だとは思いますが、竹の活用を含めて、何らかの施策を講じなければ増えてきますし、この事業で全部カバーするというのは問題かなとも思いますので、施策として根本的なことを考えないといけないと思います。これについて県として是非ご検討いただきたいと思います。

■■副委員長

全体的な感想としては、今回は市町村が入ってませんので、前年と比較しにくいのですが、やはり件数が少ないと思います。

一貫して言っていますが、子供達の森林体験を大事にするという立場から、市町村事業と併せて、「森とあそび・まなぶ」などの体験的なものがこの基金の大事どころだと思いますので、後退することがないように検討をお願いしたいと思います。

■■委員

冒頭の部長の挨拶に、過去を断ち切って、これから心機一転、この森づくり基金が発展したら良いとの一節がありましたけれども、本当にその通りだと思います。しかし、「厳しくなったんでしょう」とか個人的に聞きますので、昨年の方針の経緯などを含め、どの程度県民の皆さんに、きちんと周知されているのか気になるところです。また、この新しくなった森づくり基金活用事業についても、少しPR不足ではないかと思われるので、もう少しこの事業が皆さんに親しみを持ってもらえるようにPRすることが非常に重要なことだと思っています。

それから、この事業は、ある意味で、素朴に地元の皆さんの解決したいこと、やりたいことが現れてくるものだと思います。そうすると、その中から、例えば、もう少し市町村で力を入れる事業や、新しい事業の芽なども出てくると思います。それを施策の中に積極的に取り入れていくような視点でこの公募事業を捉えると、より広い意味で施策の発展に

繋がるのではないかと思います。

■■委員長

折角ですので、各委員さんから一言ずつお願いします。

■■委員

今回は、「森とあそぶ・まなぶ」が多く、「森をつくる」が少ないので寂しいという思いと、これが、今後、全部「森とあそぶ・まなぶ」になったらどうなるだろうという心配がありました。

■■委員

私の感想は、イベント的なことで終わらず、継続的な活動に繋がるような趣旨でやっていただけたらという気がしました。

それから、経費については皆さん努力してくれているので、講師料やバス代など、以前のように高いのではないかと明らかに思えるところはなくなっています。

ただし、件数が減ったのが寂しいと思っています。

■■委員

評価する時に、事業内容などを知っている公募団体については、的確に判断できますが、なかなか書面だけでは判断しにくいと常に思っています。タイミングもあるのですが、実際に団体が実施する事業に行けるような機会も努力してつくる必要があるのかなと思っています。

■■委員長

本当に貴重な意見をありがとうございました。これを今後活かしていく必要があります。

続きまして議事の2番、「平成25年度紀の国森づくり基金活用事業の第2次公募」につきまして、審議したいと思います。これについて当局からご説明をお願いします。

中瀬古班長

それでは、紀の国森づくり基金活用事業の2次公募について説明します。

本年度の公募に際しては、多くの変更等があるなかで、周知期間が短かったことや、募集終了後にも公募事業に係る問い合わせがあったことなどから、本年度の要望はまだあると考えています。また、予算においては残額で対応可能ですので、早急に2次公募を行いたいと考えています。

まず、2次公募の期間ですが、平成25年7月10日の水曜日から平成25年8月9日の金曜日までと考えています。予算額には、約1千7百万円程度を予定しています。また、選定につきまして、大変タイトな日程で申し訳ないのですが、8月下旬から9月上旬頃に意見聴取、9月上旬から中旬を目処に委員会を実施し、10月上旬までに選定結果を申請者に送付したいと考えております。内容的には、平成25年度1次公募と同内容で行いたいと考えてございます。

これにつきまして、ご審議をお願いします。

■■委員長

ご説明がありましたとおり、かなり日程的には厳しいですが、何かご意見ありますでしょうか。

各委員

(意見なし)

■■委員長

なければ、2次公募についてよろしくをお願いします。

本日の議案は以上ですが、「その他」で事務局から何かありますか。

太田主任

その他ですが、紀の国森づくり基金運営委員会の議事録のホームページ上で公開する内容についてご審議をお願いしたいと思います。

現在ホームページ上で公開している議事録は、出席委員名、発言委員名、議事録中に出てくる団体名等について非公開としています。

前回の委員会においてお諮りしたところ、基本的には公開していくべきという意見や、指導事項等は各団体個別に伝えるので批判的な意見もあるなかで議事録中の団体名をあえて対外的に出す必要はあるのかとの意見がありました。その他に、他の類似した委員会等を参考にした方が良いのではないかと、県の情報公開の立場からの判断を参考にした方がよいのではないかとのご意見もございました。

そのような意見を踏まえ、検討に必要な材料を用意した上で、最終的に判断しやすい案を委員会に提示するように指示がありましたので、まず、他の委員会の議事録の取り扱い等についてご説明します。

県において、同様の選考や認定等にかかる委員会等につきまして確認を行ったところ、個人情報が多く含まれるなどの理由で、ホームページで公開していないのが現状としてございます。そこで、少し趣旨は異なりますが、ホームページ上で検索したところ、4つの審議会等について公開されておりましたので、取りまとめてございます。まず出席委員を掲載している審議会等は2つ、発言委員を公開しているのは1つ、また、議事録の内容に団体名等の記載はありませんでした。

一方、情報公開における取り扱いにつきましては、基本的に公開されている委員会等においては全て開示、非公開で実施しているものは、情報公開条例に基づきます。ただし、出席委員の名前は原則公開ということですが、発言委員名につきましては、率直な意見の交換が不当に損なわれる恐れがある場合は非開示、議事録中の団体名等についても、団体の正当な利益を害するような情報等に該当する場合には非開示となります。

以上を踏まえ、事務局からは、出席委員名は公開、発言委員名及び団体名等は非公開という案を作成させていただきました。

これについてご審議をお願いします。

■■委員長

以上のとおりでございますが、この委員会で最終的な結論を出そうと思うのですが、いかがでしょうか。微妙な問題も含んでいますので、いきなり結論ではなく、質問から始めましょうか。

■■委員

この審査により評点を付け、特記事項に各委員から出された意見が付記されて、申請者のところに戻って行くと思います。その意見というのは、それぞれの委員が、独自に出されたものを集約しているもので、その内容について、委員会の総意として良いのか、それとも各委員の意見が列記されているものであって、委員会として総意としては別なものになるのかその辺をお聞かせください。

太田主任

この後の手続上の話ですが、特記事項の代表的なものを留意事項とし、それ以外については、振興局を通じ指導していくことになります。その前に、各委員に対し留意事項等の内容を委員会の意見として良いか照会しています。

■■委員

そういうことであれば、手続的には委員会の総意、そして県のスタンスを総合化したものと考えていいと思いますので、申請者に対して返す意見というのは委員会の総意であり県の意見をまとめたものであって、そういう意見がきちんと申請者に返るのであれば、あえて発言した委員の名前をそこへ出す必要は無いのではないかと考えます。

■■委員長

今の質問に関しては、委員会で今まで十分確認していなかったわけですが、その取り扱いについて今一度ご確認したいと思いますが、皆様のご意見はいかがですか。

基本的には、この特記事項は単なる個人個人の意見ではなくこの委員会の総意であって、県がそういうものを含めてきちんと申請者に報告していただく、そういう性格のものだということですね。したがって二点目は発言委員の氏名は、記載する必要は無いのでは、そういう提案ですがいかがですか。私は非常に妥当なご意見だと思いますが。

■■委員

私もそれでいいと思うのですが、ホームページ上にはこの評点表が、各委員の名前を消してそのまま出るのでしょうか。

太田主査

評点表はホームページでは公表してございません。

■■委員長

申請者から問い合わせはきていますか。

太田主査

不採択の理由についての問い合わせはありますが、点数の問い合わせはありません。

- 委員 ホームページ上では、合格した団体名を公表して、留意事項は掲載ではなく、あくまで団体にお伝えするということですよ。
- 委員長 他に意見ございませんか。
- 委員 この議論というのは、本来の議事録の中をどうするかということですか。これまでの紀の国森づくり基金の運営委員会については、Web 上では、次第とその報告内容、議事録、採択があった場合は、その公募事業の採択の一覧が載っています。例えば審議する時の基本の資料みたいなものをこれ以上載せるということではなく、今まで通りのこの形式で公表し、その中の議事録の内容についての議論ということですよ。
- 太田主任 そうです。
- 委員 ということは、これまでどおり採択された団体は公開し、この議事録の中の団体名は非公開というかたちですね。先ほどの委員の話もありますので、私もこれで良いと思います。
- 委員長 他に関連する質問、ご意見はありませんか。
- 委員長 それでは、最終的に委員の皆さんのご意見を確認したいと思います。事務局の説明、提案にありましたように、出席委員名は公開、発言委員名は非公開、議事録中の団体名等は非公開という基本的な方向でよろしいですか。
- 各委員 はい
- 委員長 そのように決定したいと思います。
他にその他の案件はありますか。
- 太田主任 先ほどありましたように、特記事項の中から代表的なものを団体さんに通知しますが、今後タイトな日程になります。そこで、留意事項として記載したい内容を読み上げますので、この委員会でご判断だけいただけないでしょうか。
- 委員長 読み上げただけでは判断しにくいので、案を作成して各委員に流していただいた方が判断しやすいのではないのでしょうか。ある程度アウトライン的なものが、ペーパーであった方が良いと思います。

太田主任

それでは、後日郵送させていただきますので、ご判断よろしくお願
い
します。

■■委員長

それでよろしいですか。
他に何かありますか。

豎課長

いろいろご意見いただきましてありがとうございます。少し補足説明
させていただきます。

昨年起こりました問題につきましては、補助金の返還等は全て終わっ
て
ございます。それから、告訴状は12月19日に田辺警察署に受理さ
れ、
現在まだ捜査中となっております。

それから、今年から市町村を除く団体のみとなりましたので、今ま
で
の団体の年間平均35件、3,500万という予算を立ててございま
し
た。今回は、件数も金額もその半分ぐらいという数字がでていま
す。
PR不足や内容の細部については実施する中で問題点が出てくるか
も
知れませんが、もう公募はないのかという声もありましたので、
2
次公募を計画させていただきました。その点ご了解いただきた
い
と思います。

また、数名の委員の皆様から竹に関するご意見いただきました。今
年
から、市町村は公募の対象外となりましたが、市町村独自で主体的
に
実施する場合は、公募以外で対応可能となっております。竹林整備
を
含めた里山整備という項目も今年新たにつくっておりますので、さ
ら
に市町村を軸にして我々も進めていきたいと考えてございま
す。
まだまだ始まったところですので、いろいろなご意見いただく中
で、
我々も考えてまいります。

それから、周知の話もいただきましたが、実は、先日6月議会の委員
会
でも同じようなご意見があり、ホームページの内容では反響等につ
い
て非常に分かりにくいというご意見がございました。実績だけでなく、
子
供が書いた感想文などの公表も併せてやっていきたいと考えてお
り
ます。まだまだ途中の話ですので、またご意見いただきた
い
と思います。
よろしくお願
い
します。

■■委員長

他に何かありますか。

■■委員

この事業を見ていると継続的な事業が非常に多いと思います。

申請上はバスの運行回数が3回であったものが、何らかの都合により
実
績で2回になれば、当然補助額は申請額からカットされてるわけ
で
すよね。過去の事業については添付資料で分かるのですが、予定
に
対して実際の結果をまとめた一覧がないので、申請に対する実績
が
分からない。そうすると、事業としては継続して実施している
と
思うのですが、実績

に対して今回の申請が甘いかどうか判断ができない。特に次の審査をする際には、そういう資料が必要ではないかと思えます。

課長

実績が申請と変わる場合は、実績が上がってきた段階で、変更措置として対処していますが、その一覧については資料として整えていきたいと考えております。

■■委員長

今の意見に関連して何かございますか。

■■委員

この事業で5年間継続して補助を受けている団体もありますので、私もその部分をよく見えています。詳しく書いてあったり、新聞記事のスクラップを載せている団体はよくわかりますので問題はないと思いますが、簡単にしか書いてない団体もありますので、フォーマットを決めて、もっと詳しい人数などの表をつくっていただき、書き漏らすことのないような書式にしていただければと思います。

■■委員長

その辺りご配慮をお願いしたいと思います。

他にございませんか

なければ、本日の委員会はこれで終了したいと思います。長時間ありがとうございました。

閉 会 11:10